



海外での体験を報告する児童・生徒たち

シンガポール ニュージーランドで

小中学生が 生活体験を報告

海外で国際感覚を養う

海外での家庭生活を体験した小学生十人と中学生十人が、九月十八日中央公民館本館で報告会を開きました。子どもたちは町長や教育委員などの前で、現地撮った写真を使いながら、楽しかった思い出や体験した苦労などを報告しました。

町では「小学生海外派遣事業」を今年初めて実施しました。国際感覚を身に付けた心豊かな子どもの育成と、今後の交流の橋渡しを目的として、町内四つの小学校六年生から選抜した十人の児童を七月二十八日から八月二日までの六日間、シンガポールへ派遣しました。

「中学生海外家庭生活体験事業」は今年で十五回目。選ばれた阿久比中学の二年生十人が、ニュージーランドでホームステイや酪農家での生活、語学学習を体験しています。八月十四日から二十三日までの十日間、「A Person with a Person」とある絆は海を越えて」というスローガンの下に、広大な自然が広がるニュージーランドで、有意義な日々を過ごしてきたようです。

児童生徒が報告した内容の一部を紹介いたします。

【小学生】

「出発のとき、空港でお母さんに手を振った後、しばらく会えないかと思ったらさみしくなりました。お世話になった家族に親切にしてもらえてよかったです」。

「シンガポールから橋を渡り、マレーシアに行きました。国境を歩い

て行けることに感動しました。マレーシアのモスク寺院の瓦が三河産だったのに驚きました」。

「言葉は違つけど、心が通じ合えました」。

「仲良くなれた家族に手紙を書いて交流を続けたいです」。

【中学生】

「言葉の壁にぶつかりましたが、自分の気持ちを伝えようと努力すれば相手に伝わる経験できました」。

「異文化に触れて、生活の違いをたくさん知ることができました」。

「普段『世界』という言葉を使っているながらも、何も世界のことがかつていなかったと実感しました」。

「ホームステイ、ファームステイでお世話になった家族に心から感謝します。今回の出会いを一生大切にしていきたい」。

子どもたちは、生活の違いに戸惑いながらも、海外生活を満喫しました。報告会では、一人ひとりが自信を付けて、大きく成長した様子が見られました。

来年の五月には、今回小学生が訪れたフエンシャン小学校の児童二十人が阿久比町を訪問してくれることになりました。小学生海外派遣事業は、愛知県フレンドシップ継承交付金事業の一環です。阿久比町ではこれからも継続してシンガポールと国際交流を図っていきます。